

全般3か月予報（5月～7月）解説資料

平成23年4月25日
気象庁
地球環境・海洋部

1. 予想される向こう3か月の天候

- 5月 天気は、全国的に数日の周期で変わるでしょう。東日本日本海側は平年と同様に晴れの日が多く、東日本太平洋側・西日本では平年に比べ晴れの日が多い見込みです。沖縄・奄美では、ぐずつく時期があるでしょう。
- 6月 天気は、北日本では数日の周期で変わるでしょう。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- 7月 天気は、北日本では数日の周期で変わるでしょう。東・西日本では、平年と同様に前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多い見込みです。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

2. 向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率

気温	3か月(%)			5月			6月			7月		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	20	40	40	30	30	40	20	40	40	30	40	30
東日本	20	30	50	30	30	40	20	30	50	20	40	40
西日本	20	30	50	20	40	40	20	30	50	20	40	40
沖縄・奄美	20	40	40	30	30	40	20	40	40	30	30	40

降水量		3か月			5月			6月			7月		
		少	並	多	少	並	多	少	並	多	少	並	多
北日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	30	40
	太平洋側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	30	40
東日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	40	30	30	40	40	20	30	40	30	30	40	30
西日本	日本海側	30	40	30	40	40	20	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	40	30	30	40	40	20	30	40	30	30	40	30
沖縄・奄美		30	40	30	40	40	20	30	30	40	30	40	30

(参考) 平年の晴れの日数の出現日数

(1971～2000年平年値)

	北日本 日本海側	北日本 太平洋側	東日本 日本海側	東日本 太平洋側	西日本 日本海側	西日本 太平洋側	沖縄・ 奄美
5月	17日	17日	18日	18日	18日	17日	14日
6月	14日	12日	13日	12日	13日	13日	17日
7月	14日	12日	15日	14日	16日	18日	24日

注：季節予報では「日照率40%以上の日数」を「晴れの日」の目安として用いています。日照率は、1日の日照時間を可照時間（日の出から日の入りまでの時間）で割った値です。

3. 数値予報による海洋と大気の流れの予想（次ページ図1、図2、図3参照）

数値予報による熱帯域の海面水温偏差の予想によると、東部太平洋赤道域で明瞭な正偏差となっている。これは予報期間後半の高温予測を強く反映してのものだが、春にラニーニャ現象が終息に向かうときの夏の同海域の海面水温の予測は特に不確実性が大きいため、割り引いて評価する。すなわち、春の間にラニーニャ現象が終息し、その後はエルニーニョ現象でもラニーニャ現象でもない「平常」の状態となる可能性が大きい。

850hPa気温偏差では日本付近は弱い正偏差で、各地方とも3か月平均で低温になる可能性は小さい。日本付近の海面気圧の偏差は小さく、また、梅雨前線、太平洋高気圧、オホーツク海高気圧についても平年からの大きな偏りは予測されておらず、6～7月は平年と同様の天候を見込む。

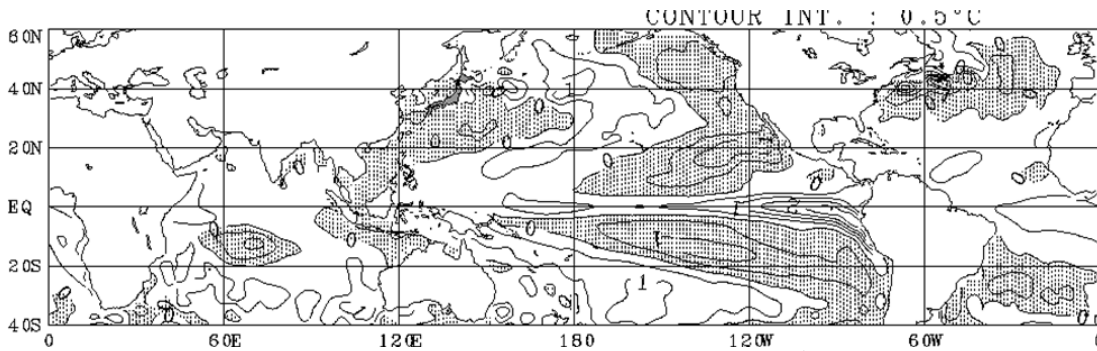


図1 海面水温平年差の予想図 5～7月の3か月平均。等値線間隔は0.5°C。負偏差に影。

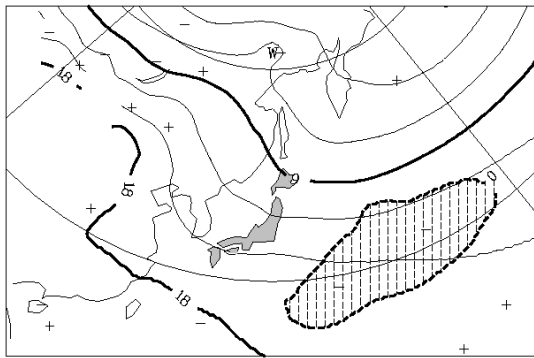


図2 850hPa 気温と偏差の予想図 5～7月の3か月平均。等値線間隔は3°C。負偏差に影。

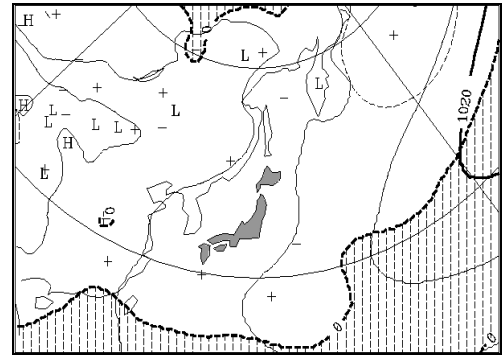


図3 海面気圧と偏差の予想図。5～7月の3か月平均。等値線間隔は4hPa。負偏差に影。

4. 最近の天候経過 (図4、図5参照)

天候経過：4月上旬は移動性高気圧に覆われて全国的に晴れの日が多かったが、旬の終わりには低気圧や前線の影響で沖縄・奄美を除いて雨が降った。中旬はおおむね数日の周期で天気が変わった。旬の終わりには上空に強い寒気が入った影響で、西日本や沖縄・奄美を中心に気温がかなり低くなった。23日までの平均気温は、北日本などの一部で平年を上回ったほかは、平年を下回った。降水量は、北日本の一部で平年を上回ったほかは、平年を下回り、かなり少ない地方も多かった。日照時間は、北日本の一部で平年を下回ったほかは、平年を上回った。**北半球500hPa天気図：**日本付近は、南東海上に中心を持つ負偏差域に覆われており、寒気の影響を受けやすく、また、南からの暖かく湿った空気の影響を受けにくかったことを示している。

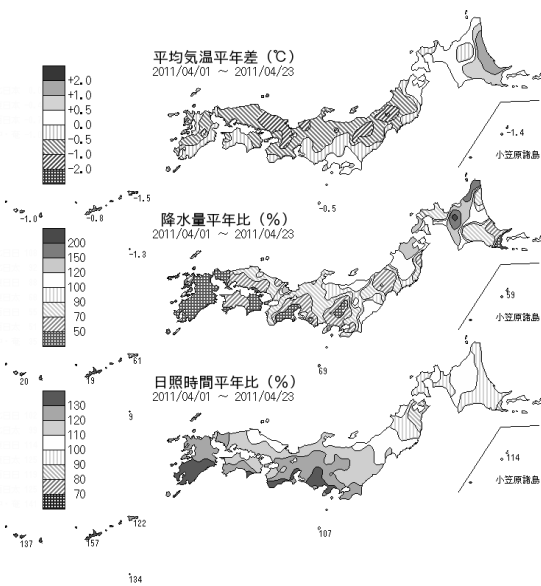


図4 2011年4月1～23日の平均気温、降水量、日照時間の平年差(比)の実況(速報値)

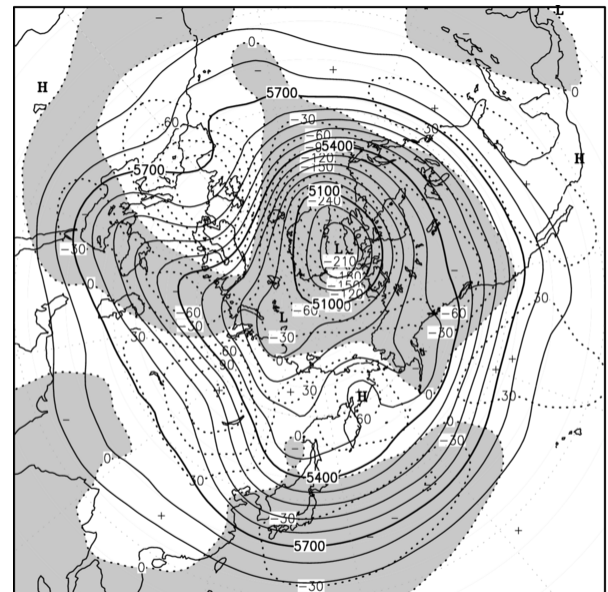


図5 500hPa高度と偏差の実況図
2011年4月1～23日の平均 等値線間隔は高度(実線)60m、偏差(破線)30m。陰影は負偏差で一般に寒気に対応。

5. 暖候期予報の見直しについて

最近の天候経過と新しい予測資料をふまえ暖候期の6～8月の天候について検討しましたが、2月24日に発表した暖候期予報の内容に変更はありません。